

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 民生博愛会

第二大野保育園

1. はじめに

- 保育利用者状況についてはおおそ定員を満たした在園児数を確保した。令和4年度は0歳児が8名と多く、クラス配分や職員配置に留意した。また令和4年度も一時保育の受け入れを多くでき、保護者のニーズに応えることができた一年となる。職員一同丁寧な保育を心がけ日々の保育を常に見直しする一年とすることができた。
- 令和4年度もコロナウイルスが終息せず、共存していく園生活となる。その都度見直しや変更が求められる中、行事や園生活のあり方、保護者へのアプローチの仕方等を常に模索し、実行していく一年になったことは大変実りの多い年であったように思う。
- 第二大野保育園の新たな特色として英語教室を12月より始める。幼年の頃より英語に触れることで、子どもの教育的向上、又魅力的な保育園の位置づけを狙い、園児の確保につなげていきたいと考える。
- 施設も開所から40年以上経過し施設の一部修繕を行った。今後の修繕に向け資金面も含めた計画に取り組む必要がある。
- コロナウイルス再拡大の影響を受けリモートでの研修会参加が多くなる。

毎月初日の園児数

	北斗市	七飯町	合計
4月	55	0	55名
5月	58	0	58名
6月	58	0	58名
7月	58	0	58名
8月	58	0	58名
9月	60	0	60名
10月	61	0	61名
11月	60	0	60名
12月	61	0	61名
1月	61	0	61名
2月	60	1	61名
3月	60	1	61名

2. 保育活動

①保育目標について

心身共に健康で健やかに成長し、子どもの全面発達を保障し、安心してゆったりとした気持ちで快適に生活できるよう環境作りを大切にしながら、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うこと。保護者の意向を受け止め子どもと保護者の関係に配慮し、保育園の特性や保育士等の専門性を生かして援助にあたり、下記のことを目標として保育を行った。

- ・元気に遊ぶ子 (健康に関心を持ち、進んで体力作りをする)
- ・友達を大切にし、思いやりのある子 (共感する気持ち、優しさを育てる)
- ・自分の気持ちを話せる子 (言葉や礼儀への関心、豊かな情操、思考力、表現力を育てる)
- ・最後まで諦めず頑張る子 (積極性、根気強さ、集中力を育てる)
- ・協調性のある子 (自主性、協調性、社会性や社会生活の基礎を育てる)

②保育内容について

保育所保育指針に基づき、あわせて本園の保育目標を考慮し保育を進めた。又、一人ひとりの発達過程に応じて個人差に配慮し、受容する保育を心がける。

乳児や障がい児との関わり大切にしながら心の育ちを助長し、子どもの個性を大切にしながら基本的な生活習慣の確立を図った。

コロナウイルス感染予防の為、遊びや生活の中での配慮が求められ距離感を考慮しながらも保育士、園児同士の関わりを持てるような活動も多く取り入れた。しかし単一的な活動になることも多く、まだまだ保育士の勉強不足が見られる場面も多く反省が残る。

- ・手洗いやうがいなどもその目的を知らせ、徹底した環境を整える。
- ・戸外活動を活発に行い、砂遊び、水遊び、雪遊びを積極的に行った。
- ・薄着の習慣を付け、健康と体力作りに繋げた。
- ・保護者参加の行事では運動会、おゆうぎ会、卒園式を行うことが出来た。参観日は出来なかったが保護者には大変好評だった。年度末に保育園の一年間の取組を年齢事にDVDに納め配布した。
- ・避難訓練、交通安全指導、食育指導、保健指導を実施する。指導では災害時の避難行動を習得したり、自分の体の健康に関心を持てるようにした。月一回通信を発行する等し、園方針の理解を深めた。

③保育計画について

0歳児～5歳児までの基本的な指導計画の中で、保育課程、食育計画、保健計画をもとにして年案、月案、3歳未満児の個別月案、週日案と適切に立てられ保育を進めることができた。

- ・子どもの発達状況や日々の状態によっては指導計画にとらわれず、柔軟に保育を進めた。
- ・障がい児に対しては個別の指導計画を立案し保育を進め、保育士の連携体制により個別での関わりも十分に行えた。
- ・各書類に関しては常に保育を見直し、定期的に自己評価を行いその結果に基づきより良いものを作り上げる努力をした。

④保育環境について

子ども達が衛生的な環境のもと健康的で快適に過ごし、様々な活動が豊かなものとなり、又安全に生活することを目標に下記のように環境を整えて保育を進めた。

- ・一人ひとりの子どもが保護者と離れて長時間過ごしていても不安を感じる事がなく、安心して過ごせるよう家庭的な雰囲気作りを心がけ、保育士が何時でも応じることができるよう身近にいた。
- ・保育室でも密な環境にならないよう、机、テーブル等の配置に気をつける。
- ・室内外の衛生を心がけ、保育室、トイレ、手洗い場等は特に清潔を保ち、毎日の清掃、消毒を徹底して行った。
- ・園児が使用する寝具、マット、食器、玩具、遊具等の徹底した点検と消毒を怠らず、清潔を保つように心がけた。(月に1回の点検と毎日の点検)
- ・各保育室の採光・温度、湿度・冷暖房の使用に注意し、十分な換気を行った。又、ホール、
各保育室に空気清浄機、加湿器を設置し、ウイルスの除去を図った。
- ・園舎内外の点検、管理を重視し、古い物から交換や修理をして安全を心がけた。(施設等自主点検表・火気関係自主点検表を利用)
- ・午睡の寝具は個人の名前をつけて使う配慮を行う。
- ・コロナウイルス感染予防の為保護者、来客の園内立ち入りをしない事とし玄関での送迎対応を行う。

⑤保育開始日および保育終了日について

- ・保育開始日 令和 4年4月 1日
- ・保育終了日 令和 5年3月31日

⑥開園時間・休園日について

- ・開園時間

月曜日～土曜日 午前7時00分～午後7時00分

*保育標準時間認定…午後6時～午後7時までが延長保育。

*保育短時間認定…午前7時～午前8時までと午後4時～午後7時までが延長保育。

・休園日 日曜日および祝日・国民の休日

3. 特別保育事業について

①障がい児保育

つくしんぼ学級との併用児が2名。保育園で過ごす時は出来るだけ適切な環境の中で保育が受けよう進めたが、難しいと感じる場面では個別での対応を進めた。また、嘱託医や北斗市保育係や保健師、専門機関（つくしんぼ学級、療育センター）との連携を密にするともに、必要に応じては専門機関からの助言を受ける。

令和4年度障がい児入所状況

1	自閉症スペクトラム (軽度)	3歳児	1名	精神発達遅滞 令和4年7月～令和5年3月
---	-------------------	-----	----	-------------------------

②世代間交流

令和4年度もコロナウイルスの影響で訪問などの交流行事は中止となる。訪問や交流会の代わりとして七夕、クリスマスやお正月の行事製作を施設に送る。又子どもの手作りの葉書と年賀状を郵送する。また交流先の敬楽荘より利用者が作成した壁面制作や手造りおもちゃを頂く。

世代間交流実施状況

	交流実施日	交流内容	場所	お年寄り参加 人数	園児参加 人数
1	6月	清華園誕生会 (歌・お遊戯・触れ合い遊び)	清華園	コロナウイルスの影響により中止	
2	6月	敬楽荘訪問 (歌・お遊戯・触れ合い遊び)	敬楽荘	コロナウイルスの影響により中止	
3	7月	七夕交流会 (笹飾り作り・歌・他・会食)	保育園	コロナウイルスの影響により中止	
4	9月	清華園デイセンター訪問 (歌・お遊戯・触れ合い遊び)	清華園	コロナウイルスの影響により中止	
5	9月	きずな・ゆとり寮訪問 (歌・お遊戯・触れ合い遊び・ゲーム)	きずな ゆとり	コロナウイルスの影響により中止	
6	9月	祖父母とバス遠足 (宮後果樹園に行きリンゴ狩りを行いお弁当を食べる)	宮後果 樹園	コロナウイルスの影響により中止	
7	11月	清華園交流会 (歌・お遊戯・触れ合い遊び)	清華園	コロナウイルスの影響により中止	
8	12月	敬楽荘デイサービス訪問 (歌・お遊戯・触れ合い遊び・ゲーム)	敬楽荘	コロナウイルスの影響により中止	
9	1月	せせらぎ交流会 (各クラス発表・会食)	保育園	コロナウイルスの影響により中止	
10	1月	清華園誕生会 (歌・お遊戯・触れ合い遊び・プレゼントを渡す)	保育園	コロナウイルスの影響により中止	
11	3月	お楽しみ会 (年長児祖父母との交流会・ゲーム・触れ合い遊び・会食)	保育園	コロナウイルスの影響により中止	

7月 清華園と敬楽荘に大型七夕飾りをプレゼント

8月 祖父母に暑中見舞いを郵送する

12月 祖父母に年賀状を郵送する

12月 清華園と敬楽荘にクリスマスとお正月飾りを製作してプレゼントする

③延長保育

保護者の就労形態から求められる必要性の高い事業なので積極的に行った。令和4年度は、保護者の就労時間が遅い園児の利用が多く、不安にならないような保育を心がけることが出来た。午前7時より午後7時までの開園時間とし、月曜日～土曜日まで行った。

* 保育標準時間認定…午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料（おやつ代含）

* 保育短時間認定 …午前7時～午前8時 無料

午後4時～午後5時 1回150円の延長保育料

午後5時～午後6時 1回150円の延長保育料

午後6時～午後7時 1回200円の延長保育料（おやつ代含）

を徴収した。職員体制は、午後5時00分までは6～7人、午後6時00分までは3人で、それ以降は2人で保育にあたった。2人で保育する場合は、2人の役割分担を明確化し慎重に保育を進めた。但し、0～1歳児や園児の人数が多い場合は人数に適した配置をして担当保育士を増員し保育を進めた。

* 月別延長保育利用状況 *

	開設日数	延長保育 日数	利用人数 標準時間	利用人数 短時間		開設日数	延長保 育日数	利用人数 標準時間	利用人数 短時間
4月	25	16	39	0	10月	25	21	57	5
5月	23	15	32	2	11月	24	22	53	5
6月	26	23	44	0	12月	25	22	56	4
7月	25	18	37	2	1月	23	18	41	9
8月	26	21	34	2	2月	22	17	31	7
9月	24	19	42	4	3月	26	20	38	5
					合計	294	232	504	45

④一時預かり保育

保護者のパート就労や疾病・入院及び私的な理由等により一時的に保育が必要と認められる乳幼児を対象に行う。保育時間を基本的に午前8時00分から午後4時00分とし、月曜日～土曜日まで行った。通常保育園児と同年齢のクラスに入り保育を受け利用料としては1日1,800円（昼食・おやつ300円、保育料1,500円）とした。

令和4年度も利用人数が多く、特に未満児の利用が多く見られる。子育てに困難を抱えているケースも多く保護者のニーズに応える事が出来た。

* 月別一時預かり保育利用状況 *

	開設日数	一時預かり 保育日数	利用人数		開設日数	一時預かり 保育日数	利用人数
4月	25	8	11	10月	25	6	6
5月	23	8	8	11月	24	11	12
6月	26	15	17	12月	25	18	28
7月	25	12	15	1月	23	11	19
8月	26	12	15	2月	22	16	25
9月	24	11	13	3月	26	22	33
				合計	294	168	202

4. 給食について

- ・主食に麦ご飯や胚芽ごはんなど栄養価の高い物を提供している。
- ・薄味を心がけ、おいしく、食欲をそそる盛りつけで提供した。
- ・アレルギー児への除去食対応、代替食対応、青色ラップで食器を覆い差別化を図る。
- ・調理室は衛生的、安全面ともに十分な配慮の中で提供できた。
- ・栄養士との連携を密にとり、食材、産地の安全面に十分注意し、子どもにとってより安全な

給食を提供できた。

- ・非常食を購入し、種類と食数を増やす。
- ・当日の給食は写真で玄関に掲示する。

5. 職員研修について

令和4年度もコロナウイルス予防の為研修会が中止となるが、リモートによる障害児研修などを受ける。園内研修は各自の学びたい研修内容を年度初めに話し合う事で学びの多い研修を行うことが出来た。

6. 安全点検について

- ・園内外の点検を日頃から徹底して行い、古い物や危険な物から交換、修理を行った。
- ・玩具は使用后すぐに消毒を行い清潔を保つ努力をした。
- ・職員会議などで、起こりうる危険・事故防止の為には何をどうすればよいかを話し合う又、ヒヤリハットの報告をし、その内容を周知し対策を職員で協議した。
- ・遊具の特性や機能を全保育士が把握し、十分な配慮の中で遊べるよう努力した。
- ・事故防止対策として午前9時30分～午後2時30分と午後6時00分～午後7時00分まで玄関を施錠した。コール音で職員が確認後、玄関を開けるようにした。
- ・戸外活動時は携帯電話を持参し緊急時に備えた。また戸外活動の際は必ず集合写真を撮り事故の際、園児の服装がわかるようにした。
- ・各種マニュアルを作成し、万が一の時に慌てることなく適切に対応できるように心がけた。
- ・0、1歳児の乳幼児突然死症候群（S I D）を防ぐため呼吸のしやすい敷布団を使用し呼吸確保に努めた。
- ・職員、園児の検温を時間ごとに行い、徹底した予防策を講じた。

7. 職員の状況について

令和5年度 3月の状況

職 種	人 数	備 考		
園 長	1名	正職	1名	
主任保育士	1名	正職	1名	
保 育 士	16名	正職	6名	パート 9名
調 理 員	4名	正職	1名	常勤臨時 1名 パート 2名
用 務 員	1名	パート	1名	
事 務 員	1名	正職	1名	
合 計	24名			

8. 施設整備及び備品購入について

(建 物)

- ・調理室コーキング工事
- ・トイレ、保育室水飲み場コーキング工事
- ・手洗い場給湯工事

(備 品)

- ・未満児用避難車購入

9. 年間行事について

計画に基づき行事を実施した。行事担当者を決めより良い行事運営に努めた。保護者参加の運動会、お遊戯会、卒園式は例年と形を変えながら実施できた。行事の内容については、その都度コロナウイルスの状況を踏まえながら園児にとって良い一日になるよう計画を立案し実施した。このような行事の進め方は今までの捉え方とは違い、より深く綿密に計画することが職員にも根付いたので良かったと思う。